



〈東区〉2018.2

しのだ江里子市政だより

札幌市議会
民進党・市民連合

〒060-0001
札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所17F
TEL(011)211-3212 FAX(011)218-5121

No.31



ゆるぎない想いささえあいの東区

2018年スタート、皆さまには穏やかに良い年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

いよいよ東区つどいむ会場では2月1日から第69回雪まつりが先行開催されます。

今年も多く市民や国内外からの観光客が雪と親しみ、大いに歓声があがることでしょう。これも東区連合町内会の皆さまを始め、支えてくださる多くのサポーターのおもてなしがあればこそと誇らしく思う今日この頃です。

秋元市長は就任から3年目の2017年は、「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」に掲げる事業を着実に実施するとともに、「市民感覚」を大切にしながら、「スピード感」を持って市政運営にあたられました。

なかでも地方自治体として初めてシニア層を対象とする体験付き仕事説明会「シニアワーキングさっぽろ」を開催し、企業の人手不足の解消と、シニア層の生きがいづくり・就業支援に努められました。加えて、女性が活躍できる環境づくりを促進するために、「さっぽろ女性応援会議」を設置し、女性経営者や企業・団体などさまざまな立場の方々と、意見交換を重ね、具体的な施策の実施に向けて、2018年度の予算編成に反映させることとなります。

昨年6月には政令市で初めて性的マイノリティの方を対象にした「パートナーシップ宣誓制度」を開始し、12月には、障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の利用を促進する「障がい者コミュニケーション条例」を施行しました。今年2月第1回定例会市議会には「手話言語条例」が提案され、障がいの有無に関わらず、誰もが人格や個性を尊重し合いながら共生し、安心して暮らすことができるまちづくりがさらに進みます。

昨年11月には、8年振りに再開された米国・ポートランド市、カナダ・エドモントン市への札幌市議会海外視察に参加させていただきました。海外視察については市民意見に賛否はありますが、中長期的なまちづくりを議論する上で、学ぶものは大きいとの認識のもと、各会派で論議を重ね①実施要項を取りまとめる②複数会派での実施③視察前後で計画書・報告書の市議会HPでの公表を定め実施しました。

ポートランド市は札幌市にとり最初の姉妹都市として58年の歴史を重ね、「全米で最も住みたい街」「環境にやさしい街1位」であり、エドモントン市は1981年札幌市が提唱した「世界冬の都市市長会」会員都市として冬季におけるまちなぎわづくりを進めています。

報告書は札幌市議会HPからご覧いただけます。ご意見などいただければ幸いです。

<http://www.city.sapporo.jp/gikai/html/>

今年も市民の声を、女性の声をしっかり市政に伝えてまいります。



文教委員会報告(12月26日)

陳情第248号「子ども・保護者・保育労働者の緊急課題の実現を求める陳情」初審査

定員拡大を行ってもさらに待機児童が生じている状況については、保育所等の新設により受け皿の拡大が進むことで、その近隣における潜在的な保育ニーズが喚起され、新たなニーズが発生している状況にあることは、容易に推し量ることができます。

札幌市もこの間、保育サービスの供給について、保護者の保育に対する多様なニーズに応えるために、子ども・子育て支援事業計画に基づき、認可保育所の新設だけでなく、幼稚園から認定こども園への移行や小規模保育事業所の新設など、計画的に整備を進めてきており、第3回定例会市議会で可決した補正予算の256人分を含め、アクションプランの計画値383人分に大幅に上積みして、1,325人分の受け皿確保を進めていることには、一定の評価をします。

職員配置基準については、保育の質を確保するうえではもちろんのこと、保育士が働くうえでも大切です。

国では、3歳児の配置基準(20人に一人であったものを15人に)の改善などに取り組んでおり、保護者が望む、より安全で安心な保育環境が整うことはとても望ましいことです。

その前提には、保育士の確保があつてのこと、各園において保育士の確保ができなければ、まさに絵に描いた餅になってしまいます。

保育士の確保は、この札幌においても大きな課題になっており、特に今の時期、4月に向けた職員の採用に奔走しており、なかなか思うように採用の目途が立っていないとの話も聞いています。

〔質問1〕保育士の確保については、これまでどのように取り組み、現在の状況をどのように認識しているか？

(答弁) 保育の供給に当たっては、整備とともに保育を担う人材の確保が必要不可欠であり、就業継続の支援や潜在保育士の掘り起こしに加え、次世代の育成といった観点での継続した取組が重要と認識。札幌市保育士・保育所支援センターでは、2017年から、民間企業の情報誌を活用しPRを行い、採用人数を11月末時点で109人に結びつけたところ。

また、従来からの潜在保育士掘り起こしに向けた職場復帰セミナーや、労働局との共催による合同施設説明会においても、参加法人の拡大や開催時期の工夫に加え、PR強化により、それぞれ参加者数が増加。さらに、今年度初めての取組として、次世代の育成に向けた高校生の職場体験を実施したところ。

女性の活躍に向けての気運が年々高まってきている社会状況等に伴い、当初の計画を上回るペースで保育ニーズが伸びていることに加え、今後も幼児教育・保育の無償化による、ニーズのさらなる増加が見込まれることから、人材確保がより一層重要な課題と認識している。

〔質問2〕保育士の確保について、今後どのように取り組んでいくのか？

(答弁) 人材の確保に当たっては、処遇改善はもとより、就業継続の支援や潜在保育士の掘り起こし、次世代の育成、こうした観点から、幅広い取組を継続していくことが重要である。

2018年1月開催の合同面接会では、潜在保育士や学生などが、より多くの施設関係者と接する機会を設け、参加事業所数を拡大することに加え、一時預かり保育事業を実施している幼稚

園も初めて参加する。さらに、将来の保育士の確保に向けても、市内及び近郊の養成校に働きかけ、初めて一堂に会して、高校生向けの学校説明会を開催する。

見直しを進めている需給計画においては、供給量の確保に向けた環境整備として、今回初めて保育士確保の取組を位置づけることとしており、これまで取り組んできている確保策については、より一層の工夫を図り、今後国が新たに打ち出す施策についても積極的に活用するなど、関係団体や養成校とのさらなる連携強化のもと、取り組みを進めていく。



第3回定例市議会代表質問ダイジェスト (2017年9月26日)

<都心アクセス道路について>

都心アクセス道路の強化は必要と認識しているが、高額な事業費、地域や周辺道路との関係、構造など様々な観点からの検討が必要。

現在、都心アクセス道路については、国、道及び市からなる検討会において検討が進められているが、しっかりと市民理解を得ていくことが重要。そのためには、都心アクセス道路の構造について、検討段階から市民に丁寧な説明をしていく必要がある。

(質問) アクセス道路の構造は、高架構造、地下構造及び交差点改良の3形態を基本として、今後検討を進めていくのか、また、構造を決定するにあたり、市民理解を得る取組をどのように進めていくのか？

(答弁) 区間ごとの課題を踏まえ、整備形態の組み合わせも含め検討していく必要がある。検討段階に応じてきめ細やかな情報発信を行うと共に直接意見を聴く場を設ける。

<地域内雪処理について>

雪堆積場への負担を軽減するためには、雪堆積場に運び込む雪の量そのものを減らし、地域の雪を地域内で処理することも重要であると考えられる。札幌市では、地域と札幌市がルールを取り決めて覚書を交わした上で、街区公園を地域の方の雪置き場として利用したり、交差点排雪や隣接道路の拡幅除雪の雪を雨水貯留池に入れるなど、比較的小規模な公共用地を活用した地域内での雪処理を推進しており、この取組を質・量ともに拡大すべき。

例えば、現在十分に活用できていない公共用地、特に、公園については、少子高齢化の進展に伴い、求められる機能が変化していることから、再整備を行う際には、夏に必要な遊び・憩いの機能と、冬に必要な雪処理の機能が両立するように、地域の声を聞きながら、施設配置を検討する必要がある。

地域の方々と除排雪について意見交換を行う機会があり、その際に地域の方から、交通量が少なく、道路の両側が公園や畑などであるため沿道からの出入が無いような生活道路では、車1台が通れる幅以外を地域の雪置き場として利用してはどうか、あるいは、公園や歩道などに地域と共同で融雪槽を設置し、それを利用して地域の雪を処理するのはどうかなど、様々な意見が寄せられた。

これらの取組を実現するためには、関係する地域住民などの理解や協力が必要であり、今すぐ実現とはならなくても、地域内での雪処理については、地域と共に考え、地域と協働で取り組むことが重要と考える。

(質問) 次の中長期計画には、雪堆積場への負荷を軽減するため、地域のアイデアを吸い上げ、地域にとって望ましい方法により、積極的

に地域内雪処理に取り組む、ということ盛り込むべきと考えるがいかがか？

(答弁) 地域との懇談会等を通じ、実証実験などを行いながら。未利用の公共用地や民間所有の空地にも取り組みを広げたい。地域内雪処理の拡充を次期計画に盛り込んでいく。

<ひきこもり対策について>

札幌市は、2015年10月に厚生労働省のひきこもり対策推進事業を活用し、ひきこもりの状態にある本人や家族等を支援するための第一次相談窓口として「ひきこもり地域支援センター」を設置した。

ひきこもり支援は、専門相談員の質の確保や養成研修、ひきこもりピアサポーターの活用や、常設の居場所の設置など、様々な支援の在り方が求められており、保健福祉、医療、教育、労働などの重層的な関わりを必要とする。

札幌市はひきこもり支援の所管を主に40歳未満の若者支援として、教育委員会から子ども未来局に所管を替えたが、ひきこもりの長期化や、今後、高齢化に伴い40歳以上のひきこもり当事者が増加する状況を勘案すると、子ども未来局がふさわしいのか懸念する。

更には、最も支援が必要とされる中高年の域に入った当事者や家族への具体的な支援策が新たな問題として浮上しており、改めてひきこもりに関する詳細な実態調査を早急に実施することが求められる。

(質問) 40歳以上も対象に含めた実態調査を早急に実施するとともに、本人や家族を支える民間支援団体と今後さらに連携を図っていく必要があると考えますがいかがか？

(答弁) 2015年に開設された「ひきこもり地域支援センター」での新規相談284人中40歳以上は27.1%、相談件数は延べ1,130件に上る。

民間支援団体との連携を強化し、当事者や家族を相談窓口につなげる取り組みを広げ、40歳以上を含めた実態調査も検討する。

しのだ江里子のつれづれ日記



冬季五輪招致調査特別委員長 (12.4)



エドモントン市長訪問 (11.10)



ビクトリアパーク (11.10)



キャンパス エナジー (11.6)



スクールハウス
エレクトリックサプライ
(11.7)



ナイキ ワールド キャンパス
(11.8)



FMさっぽろ村ラジオ (10.6)



第3回定例会代表質問 (9.26)

皆様のご意見をお寄せください

しのだ江里子事務所

〒065-0024 札幌市東区北24条東16丁目1-7
グローバルビル2F (元町駅1番となり)
Tel: 011-784-1086 Fax: 011-792-0081
E-mail: eriko1950@beige.plala.or.jp
URL: http://www.shinoda-eriko.com

f 篠田江里子

“しのだ江里子のつれづれ日記”
毎週金曜日 午前10時から30分放送中
(コミュニティFMさっぽろ村ラジオ 81.3MHz)
(インターネット放送局 ニューゾーンFM)